

2021年12月27日

<各位>

ナノキャリア株式会社
代表取締役社長 松山 哲人
(4571 東証マザーズ)
問合せ先 IR担当 土屋 千映子
電話番号 03-3241-0553

VB-111の卵巣がん第Ⅲ相臨床試験は国内目標症例数を達成

標準治療がなく新たな治療法の開発が強く求められているプラチナ製剤抵抗性再発卵巣がんを対象としたVB-111の国際共同第Ⅲ相臨床試験(OVAL試験)について、国内目標症例数の30例を達成しました。本試験結果については、OVAL試験として早ければ2022年後半にPFS(無増悪生存期間)の結果取得が想定されています。

本疾患はアンメットニーズが非常に高く、VB-111が新たな治療の選択肢として期待され、世界で症例登録が進んでおります。2021年11月15日時点で、世界で85%(340例)以上の症例登録が完了しており、目標症例数である400例は今年度中に登録を完了すると見込んでいることがVBL社から発表されています。なお、日本においても全体での進捗を考慮し、症例登録は当面継続いたします。

本件による2022年3月期業績への影響はございませんが、当社は、国内上市に向けた開発および製造販売承認申請までの加速化に取り組み、将来的には国内販売を通じた収益化を見込んでおります。

※プラチナ製剤抵抗性再発卵巣がん

女性では、40歳代で乳がんや子宮がん、卵巣がんなどの罹患が多くを占めており、国内の卵巣がん罹患数は年間10,000人を超え、死亡者数は年間約5,000人に達しています。卵巣がん患者の約2-3割が、治療中またはプラチナ製剤投与後6か月以内に増悪、または、再発し、プラチナ製剤抵抗性再発卵巣がんと判断されます。プラチナ製剤抵抗性再発卵巣がんは標準治療が確立されておらず、新たな治療法が強く求められる疾患です。

以上